



脳と認知機能の障害

ストレス性行動障害



人間と同じように、ストレスによりペットにも不安が生じます。ペットは、大きな音にさらされたり、飼い主から離れたり（飼い主がペットを1匹にする）、家庭内に新しい人やペットが現れたり、日常生活が変わったりすると不安になることがあります。

慢性的なストレスとそれに続く不安は、行動だけでなく、胃腸や免疫、（猫の場合）下部尿路の健康にも影響を与えます。犬の行動問題の70%は、不安が原因であると言われています。犬の不安行動には、震え、過剰な吠え、破壊行動、歩き回る、唇を何度も舐める、あくびをするなどがあります。猫の不安行動には、室内での排泄、攻撃性、オーバーグルーミングなどがあります。

腸脳軸とは、腸管と脳の間で起きている双方向のコミュニケーションのことです。腸内細菌叢は、神経系の発達、脳の生化学（神経伝達物質の生成など）、ストレス要因への反応、行動などに影響を与えることが研究で明らかになっています。ある種のプロバイオティクスは、腸内細菌叢を変化させ、不安を軽減し、行動に影響を与えます。また、魚や乳由来の成分などのサプリメントも行動に影響を与える可能性があり、その作用機序は現在も研究されています。

キーメッセージ

- Purina のプラセボ対照クロスオーバー試験で、不安な犬に独自株ビフィドバクテリウムロンガム NCC3001 (BL999) を含むプロバイオティクスを補給すると、不安が軽減されることが示されました。
 - このプロバイオティクスを摂取させたところ、90% の犬が日常的な刺激に対する不安行動、すなわち、吠える、飛びつく、回転する、歩き回るなどの行動が減少し、改善を示しました。
 - このプロバイオティクスを摂取した場合、83% の犬の唾液中のコルチゾール濃度が低下し、75% の犬が不安を誘発する刺激に対する心拍数が低下し、反応性が低下することが確認されました。また、このとき、サプリメントを摂取したほとんどの犬 (83%) で心拍変動が大きくなり、よりポジティブな感情状態であることが示されました。

(次のページに続く)

キーメッセージ (続き)

- また、Purina によるクロスオーバー試験で、不安症の犬に魚油を増量した食事を与えたところ、日々の不安な行動が有意に減少することが示されました。また、この食事を与えた犬は、不安な刺激に対する反応が少なく、よりポジティブな状態でした。
- 牛乳由来の α -カソゼピンやカゼイン加水分解物、魚類加水分解物、L-テアニンなどの植物抽出物を与えることで、不安な行動の軽減に役立つ場合があります。しかし、犬の不安を軽減するために、食事のタンパク質の量やアミノ酸であるL-トリプトファンの量を変更することは研究により一貫して支持されているわけではありません。
- 猫では、不安に対する栄養管理はそれほど広範に検討されていません。
 - Purina の初期の研究では、独自の菌株ビフィドバクテリウム・ロンガムが、猫のストレスとそれに伴う行動 (例: ペーシング) を軽減することが示されています。
 - また、他の研究では、 α -カソゼピンやL-トリプトファンが猫の不安の軽減に役立つ可能性が示唆されています。

追加のリソース

McGowan, R. T. S. (2016, March 31–April 2). "Oiling the brain" or "Cultivating the gut": Impact of diet on anxious behavior in dogs. *Proceedings of the Purina Companion Animal Nutrition Summit: Beyond essential*. Fort Lauderdale, FL, United States, 87–93.

Beata, C., Beaumont-Graff, E., Diaz, C., Marion, M., Massal, N., Marlois, N., Muller, G., & Lefranc, C. (2007). Effects of alpha-casozepine (Zylkene) versus selegiline hydrochloride (Selgian, Anipryl) on anxiety disorders in dogs. *Journal of Veterinary Behavior*, 2, 175–183.

Davis, H., & McGowan, R. T. S. (2021). Effect of *Bifidobacterium longum* 999 supplementation on stress associated findings in cats with FHV-1 infection. *Journal of Veterinary Internal Medicine*, 35(4), 116, NMO1.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。